

総務消防委員会行政視察報告

視察第2日 岡山県久米南町 2023年5月16日（火）

●視察先・視察項目

久米南町庁舎 「デマンド交通について」

久米南町の概要

久米南町は、岡山県のほぼ中央に位置し、東は美咲町と赤磐市、南西は岡山市、北は美咲町に接している。

町の中央部を南北に走る JR 津山線の神目、弓削、誕生寺の3駅があり、並行して国道53号が縦貫。また、旭川の支流の誕生寺川が南流し、その川に沿って細長い平地が伸びている。標高は100～500mと高低差があり、台地状をなす比較的平坦な高原面も開け、吉備高原の一部をなしている。

気候は温暖で冬期積雪量は少なく、平均気温は15.9℃、年間降雨量は1,251mm。

主な産業は、米作を中心とする農業で、日本の棚田百選に選ばれた北庄（きたしょう）、上粳（かみもみ）地区には、四季を通じてアマチュア写真家が県内外から撮影に訪れる。

○人口：4,463人

○世帯数：2,193世帯

○面積：78.65km²（2023年4月30日現在）

1 視察目的

本市は、499.2km²という広大な面積を有する市であり、山間地域の割合も高く、市内における交通手段の確保が長年の課題となっている。高齢化が進み、自家用車での移動にも限界が生じている市民も増えている状況にあり、市内の一部のエリアにおいてはデマンド交通の導入も始まっている。今後の新都市において、このデマンド交通の活用は大きな可能性を秘めており、導入・活用で先進事例として成功されている久米南町のデマンド交通の現状を学び、本市に生かしていくことを目的とする。



2 視察内容

〔対応者〕 総務企画課：大家上席主幹

〈中山間地域における移動支援の工夫とクロスセクター効果による評価〉

1. 町内の公共交通

町内に民間路線バスは無く、個人タクシーも廃業してしまった中で、直営のコミュニティバスを運行していたものの、利用は低調であった。そこで、新たに交通事業者を誘致し、2016年度からデマンド交通「カッピーのりあい号」（事前予約制・定時運行）の運行を開始した。

2. カッピーのりあい号のこれまでと取り組み内容

2016年4月から各ゾーンと町中心部との間を運行するドアツードア型のデマンド交通「カッピーのりあい号」を運行開始するが、朝昼の特定の便に利用が集中し、午後の輸送力には余裕がある状態で効率性に課題があった。

そこで、2020年1月に、トヨタモビリティ基金（TMF）の助成を受け、AI配車システム（未来フェア「SAVS」）を導入し、主に以下の取り組みを実施した。

- ・時刻の定めを無くし、いつでも、町内どこへでも行けるように
- ・乗車の直前まで予約が可能に
- ・電話だけでなく、スマートフォンで予約ができるように
- ・住民説明会の開催、広報誌の配布、利用方法をまとめた冊子の配布、周知ポスター掲示

また、2020年6月より、TMFの助成を受け、車両の空きスペースを活用した宅配貨物事業者との連携や農作物の出荷に向け準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、飲食店の商品宅配サービスも追加した形で貨客混載を開始した。

3. 利便性向上と運行効率化による効果

- ・利用者の増加（2019年：8.4千人→2020年：11.8千人）
- ・宅配サービスは開始当初3個／月であったが、運賃割引キャンペーンの実施等もあり、2021年3月には85個／月の利用まで増加
- ・「外出頻度が増加した」利用者が40%、「将来の交通手段に対する不安が減った」利用者が62%にのぼり、行動と意識の両面に効果
- ・「行きたい買い物先まで、自分一人で行けるようになった」利用者が66.4%
- ・2019年時点と比較し、コピーのりあい号の満足度が19ポイント上昇
- ・特定の時間帯への利用者集中を緩和でき、車両数を6台から5台へ削減
→車両台数削減によって、約600万円の経費削減効果
- ・削減した公的負担額の再配分により、2021年4月から土日祝日の運行、平日朝夕の運行時間拡大の実施することで利用者の利便性向上
- ・2019年と比較し、4月以降の利用者数は倍増、運賃増加率も約200%を達成

<利用数と1利用あたりの経費>

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2021
乗客数	8,693	9,166	8,835	8,701	12,654	17,590	18,787
貨物数	-	-	-	-	468	95	864
総経費(千円)	40,541	35,530	36,105	37,173	33,789	36,564	39,471
1利用あたり 経費(円)	4,664	3,876	4,087	4,272	2,575	2,068	2,009

<乗合率>

年度	2020	2021	2022
総トリップ数	12,340	16,549	17,854
単独トリップ数	8,927	10,793	10,831
乗合トリップ数	3,413	5,756	7,023
乗合率	28%	35%	39%

4. クロスセクター効果による評価

カッピーのりあい号運行に係る町の公的負担は2019年度で3,024万円であるのに対し、カッピーのりあい号を廃止した場合の追加代替費用は年間3,590万円という算出がなされ、クロスセクター効果は年間566万円となった。よって、行政分野の支出抑制にも寄与していることが確認された。

3 所感

本市でも、一部の地域で運行がスタートしているデマンド交通の先進事例である久米南町への視察で学ばせて頂いたことによって、今回の視察目的を果たすことができ、今後の本市におけるデマンド交通の発展の可能性を模索するヒントを得られる有意義な視察となった。

まず、デマンド交通の運行にあたり、AIを活用した予約配車システムを導入することによって、より効率的な車両の活用を目指すことが重要である。本市の有する各種公共交通手段においては、その多くは乗客数が少ない状態での運行を余儀無くされており、その結果費用対効果の効率が悪い市費の使い方となっている。これを改善するためには、デマンド交通+AIによる配車システムの導入が最適であると考えます。

また、事業執行にあたっては民間基金の活用や国の補助事業等も有効に活用されていることで費用面での自己負担を軽減していることも大きなポイントであり、本市においても同様に積極的な基金・補助事業の確保が急がれる。

デマンド交通については、まだまだ市民理解が十分に得られていない現状があると感じられるため、今後のデマンド交通拡大に際しては、久米南町の事例のように住民に対してきめ細やかで丁寧な説明をしていくことが利用者拡大にも重要な役割を果たしていくとも感じた。

本市においては、バスやタクシー等の民間事業が現在も運行を続けて頂いており、久米南町のようにデマンド交通の全域導入が一筋縄には行かないことが想定されるが、今後ますます増加していく交通弱者を見据え、少しでも利便性の良い公共交通を出来るだけ安価に効率的に市民へ提供すべく、議会として本市の公共交通のあるべき姿を模索していきたい。

